

令和8年度 第1回桑名市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和8年9月18日（金） 10：00 ～ 12：00

開催場所：桑名市役所 3階第2会議室

出席者：委員 17名（敬称略）

岩崎 恭典	（学校法人暁学園 顧問）
梶 充夫	（桑名市自治会連合会会長）
江上 正友	（多度地区自治会連合会会長）
森 浩木	（長島伊曾島地区自治会連合会会長）
森田 則夫	（桑名地区）
江上 元一	（多度地区）
高野 豊美	（長島地区）
尾崎 和成	（三重交通株式会社 桑名営業所長）
加藤 義明	（三重交通労働組合執行委員長）（代理出席 楠 幸憲）
中村 良寛	（三重県タクシー協会 北勢支部長）
伊藤 克也	（三岐鉄道株式会社 執行役員鉄道部長）
中村 大輔	（養老鉄道株式会社 代表取締役 鉄道営業部長）（代理出席 中村 晃士）
森 慶之	（中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官）（代理出席 堀出 寛人）
村上 英貴	（桑名警察署 交通第一課長）
三和 敏彦	（三重県 桑名建設事務所 総務・管理室 管理課長）
風間 友理	（保健福祉部 介護高齢課長）
笥 直樹	（地域コミュニティ部 地域コミュニティ課長）

1. 委員紹介（交代）

2. 「活発で良い議論ができる会議のために。」パンフレットの説明

3. 報告事項

(1) コミュニティバス実績報告について

【質疑応答】

・令和7年度の委託料減少の理由は何か。（江上正友委員）

⇒委託料は既存コミュニティバスのみの数値である。西部南ルートが7月に完全移行したため9ヶ月分の委託料が減少したことが要因である。（事務局）

・運行委託料は運賃を差し引いているのか。(森田委員)

⇒運行経費から事業者が回収した運賃収入を差し引いた額を委託料として支払っている。
(事務局)

・のるーと桑名の年間経費はいくらか。(梶副会長)

⇒1地区あたり年間約5,000万円である。(事務局)

・長島ルートは乗降拠点が少なく、利用する機会があまりないのではないか。(高野委員)

⇒長島地区ではフリー乗車区間を設定するなどの対応を行っている。今後の利用状況を踏まえ、乗降拠点の見直しを検討する。(事務局)

(2) AI活用型オンデマンドバス本格運行の状況について(西部南エリア)

【質疑応答】

・苦情や住民の反応はどうか。(岩崎会長)

⇒苦情はほとんどなく、予約方法に関する問い合わせが中心である。(事務局)

・利用対象者は誰か。(森田委員)

⇒登録した方全員が対象である。(事務局)

・アプリからの予約方法は簡単にできるのか。(江上正友委員)

⇒アプリでの予約が難しい方には、電話予約にも対応している。(事務局)

・利用者の声は聞いているか。(高野委員)

⇒利用していない方の声を聞くことも重要であり、登録者を増やすための啓発活動が必要である。(梶副会長)

・オンデマンドバスと「のるーと桑名」の名称の違いは何か。(江上正友委員)

⇒「のるーと桑名」は、AIが最適ルート・時間を計算するオンデマンドバスの桑名市における愛称である。(事務局)

(3) 自動運転の取組状況について

【質疑応答】

・特定自動運行主任者とは何か。(森田委員)

⇒レベル4では運転手は乗務しないが、事故や緊急時に救助や救急手配などを行う主任者

(第二種運転免許は不要)の同乗が必要となる。(事務局)

4. 協議事項

(1) A I 活用型オンデマンドバスについて(多度エリアでの本格運行)

【質疑応答】

・普通車2台で対応できるのか。(森委員)

⇒既存コミュニティバス利用実績(1日平均31人)から、対応可能と想定している。(事務局)

・家族で利用する場合の運賃体系はどうなるのか。(森田委員)

⇒運賃はタクシーのような1台単位ではなく、1人につき300円となる。(事務局)

・全市に「のるーと桑名」を導入することは、予算面でも難しいのではないか。(梶副会長)

⇒全市への「のるーと桑名」の導入は考えていない。交通空白地など、導入が必要な地域について検討している。(事務局)

・説明会は多度地区のみで実施するのか。全地区で実施した方がよいのではないか。(高野委員)

⇒多度地区市民センターなどで複数回説明会を実施する予定である。他地区での説明会は、現時点では予定していない。(事務局)

・乗降拠点の追加要望には柔軟に対応してもらえるか。(江上正友委員)

⇒安全性(交差点やカーブ付近でないか等)や物理的条件を満たせば、本格運行後も追加を検討することは可能である。(事務局)

・鉄道沿線へのアクセス手段としてオンデマンドバスが機能し、駅の利用が増えることは大変ありがたく歓迎したい。(中村委員)

【採決】

・異議なし(コミュニティバス北部ルートの運賃部分を除く)

※運賃部分については、運賃協議会にて別途協議を実施

(2) A I 活用型オンデマンドバスについて(深谷エリアでの実証実験)

【質疑応答】

・乗降場所はどこか。(森田委員)

⇒基本的にはコミュニティバスのバス停を乗降拠点として、加えて、公共性や安全性を確保できる場所に設定する。(事務局)

・市内中心部（医療センターから市役所など）のみで乗降する利用はできないのか。(岩崎会長)

⇒既存タクシーや民間のバス路線との住み分けを図るとともに、市内周遊を認めると深谷地区住民の予約枠が圧迫されるおそれがあるため、利用可能な区間を分けている。(事務局)

【採決】

・異議なし